

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成21年度第3回スポーツ振興審議会
開催日時	平成22年2月22日(月) 11時00分～12時15分
開催場所	高松市役所 11階 職員研修室
議 題	「高松市スポーツ振興基本計画(案)」について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	穴吹委員, 城門委員, 小島委員, 多田委員, 野崎委員, 長谷川委員, 林委員, 松本委員 (欠席2名)
傍 聴 者	0 人 (定員 10 人)
担当課および 連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過および会議結果

次のとおり会議を開会し、議題について協議した。

- 1 開会
午前11時00分
- 2 会長あいさつ
- 3 会議の成立
事務局から、委員10名のうち出席8名にて、設置要綱により会議が成立していることを報告。
- 4 会議の公開について
野崎会長から、本日の会議では、非公開となるような事項の審議は想定されないことから、会議を公開することを諮り、異議なく了承された。
- 5 議題
・「高松市スポーツ振興基本計画(案)」について
事務局より「高松市スポーツ振興基本計画(案)に対する意見」について説明。
- 6 報告事項
スポーツ施設使用料等の見直しについて

○質疑

(会長)

委員の皆さんに伺うが、答申(案)の7つの項目について、前回・前々回の議論が十分に反映されていないなどの意見はないか。

(委員)

答申(案)3の「競技を普及啓発する指導者への活動支援」の「競技」のところに、医学的なもの・栄養などの面も考え、健康づくりという要素も入れてほしい。

(委員)

地域密着型トップスポーツチームに代わるのは、アマチュアスポーツであり、アマチュアスポーツは幅が広く、歩いたり走ったりするトリムスポーツを日常生活で取り入れ生活化していくことも方法のひとつである。

会議経過および会議結果

エアロビクス運動が本当の意味での健康づくりであり、一般の市民にとって健康づくりがメインプログラムである。

(会長)

それでは、答申3は、「スポーツ・健康づくり運動を普及啓発する指導者への活動支援」ということで、よろしいか。

ところで、答申(案)7の(小学校体育施設開放事業の受益者負担の導入について)「幅広く市民に意見を聞く」というのは、プロセスが大変なのではないか。

(事務局)

小学校体育施設開放事業の受益者負担の導入については、本審議会、議会ともいろんな意見があり、私どもは、すぐに行うのではなく課題を認識し、関係団体に意見を聴き、「幅広く意見を聞く」というプロセスは、きちんと踏むつもりだ。

(委員)

小学校体育施設開放事業には地区体育協会、体育指導委員が住民の窓口として第一線でかかわっているため、意見集約がしやすいので、ぜひ体育指導委員も活用してほしい。

(委員)

答申(案)3の「スポーツ・健康づくり運動を普及啓発する指導者への活動支援」は、スポーツが軽スポーツや健康づくりを含んでいるため「スポーツを普及啓発」でいいのではないか。

また、地域密着型トップスポーツチームには、「トップ」という言葉が入ってもいいと思う。この「トップ」には、「トップを目指す」という意味合いなので、あくまで「トップ」であるという意味ではないと思う。

(委員)

「トップ」の意味は、アマチュアであり、昨今では、アマチュアイズムで大切なものが失われている。

(会長)

では、答申3は、3ページに本計画においてのスポーツが定義されていることから、「スポーツを普及啓発する指導者への活動支援」ということで、よろしいか。

これまで、小・中・高生の競技スポーツと市民スポーツが、市のスポーツの大きなあり方であった。指導者も子どもたちも無償で行うことが当然であったが、市としてプロスポーツをはぐくもうとしていると思われる。

10ページの地域密着型トップスポーツチーム関係の部分では、どういうメリットがあり、どういうデメリットがあるかなど、高松市の役割をはっきり示したほうがいいのではないか。今まで市の中で活動していた他のスポーツ団体との関係づけが必要でないか。高松市にはこれまで培ってきた市民スポーツを育てるという伝統を損なってほしくない。

(事務局)

27ページにあるように、素案検討ワークショップでは、試合の応援だってスポーツという考えであり、地域密着型トップスポーツチームが地域から支援されながら、スポーツを通じて地域・高松を元気にするということが本市としては、支援している。素案検討ワークショップの提言にあるように、応援もスポーツとしてとらえ、「する・みる・みせる」に基づいて、計画(案)の中に入れ、地域密着型トップスポーツチームとの連携を記載した。

会議経過および会議結果

(委員)

答申7で、小学校開放利用者から料金を取るとしておきながら、答申2で、地域密着型トップスポーツチームを支援するというのは、整合性が取れないと思う。

トップスポーツチームへの支援については、各チームがどんどん教室を開いたりして、もっと地域と密着し市民に還元してくれるというのであれば、市民が納得できると思う。

(委員)

とにかく、金をかけずにできる高松市独自のスポーツ政策を考えなければいけない。

(会長)

全般に地域密着型トップスポーツチームへの支援については、委員の皆さんが不安を持っているようだ。香川プロスポーツクラブ連絡協議会と既存団体のかかわり方の組織的なつながりを検討してみるなど市としてもっと地域密着型トップスポーツチームの位置付けを、はっきりさせていく必要がある。

(会長)

高松市には、これまでの「市民スポーツ」振興のいいところを大切にしながら、これからの高松市のスポーツ振興をやっていていただきたい。

答申2は、「(地域密着型トップスポーツチームについては)基本方針の内容との整合性に留意されたい」、答申3は、「スポーツを普及啓発する指導者への活動支援」ということでよろしいか。

(各委員賛成)

○報告事項

- ・スポーツ施設使用料等の見直しについて
事務局が、見直し案について、資料に基づき説明。
質疑応答は特になし。